

# 第八十二回六甲会（令和七年九月五日）

## 稲畑廣太郎選

兼題「爽やか・地虫鳴く」その他当季雑詠

### 第一句会入選句

- |                  |       |                   |       |
|------------------|-------|-------------------|-------|
| 自立すと娘は爽やかに言つてのけ  | 松若修一  | 地虫鳴くさよなら負けの帰り道    | 船山美貴  |
| 打ち込みし杭をねぐらに地虫鳴く  | 足立朱麻  | ○湧く声にはほのと色あり地虫鳴く  | 山之口倫子 |
| ○地虫鳴くコントラバスのGの音  | 武本満子  | ○湿りたる幾世の地層地虫鳴く    | 奥田好子  |
| 人去りし鶴塚辺り地虫鳴く     | 山村千恵子 | 爽やかや奥社へ雅楽木霊する     | 足立朱麻  |
| 地虫鳴く地球の温度上昇中     | 谷本房子  | 爽やかや大屋根リング一周し     | 長安悦子  |
| そばに居るだけで爽やかなりし人  | 福島良枝  | 爽やかや明日することのけふ出来て  | 三好ようこ |
| 甲子園子等の五分刈爽やかに    | 船山美貴  | 廃線の駅の静寂や地虫鳴く      | 中本 宙  |
| 地虫鳴く土の湿りに息ひそめ    | 足立朱麻  | とぼとぼと夜ふけの帰宅地虫鳴く   | 鎌野光子  |
| 靄立ちて放射冷却地虫鳴く     | 松若英理子 | 床下の闇を深めて地虫鳴く      | 徳岡美祢子 |
| 研修医僻地志願を爽やかに     | 松若修一  | 考へのまとまらない日地虫鳴く    | 山村千恵子 |
| 地虫鳴き色づきそめし吉野山    | 山之口倫子 | さやけしや目つむり肌の風を聞く   | 田中由子  |
| 妹の遅き帰宅や地虫鳴く      | 惠島祥一朗 | ○さやけしやあしたゆふべの草の色  | 山村千恵子 |
| ○爽やかや雨後に奏つる風の詩   | 武本満子  | 句の道の十人十色爽やかに      | 徳岡美祢子 |
| 爽やかな風にはためく万国旗    | 船山美貴  | 雨あがり闇に地虫の鳴き出せり    | 辰巳昌彦  |
| 村人の隣づきあい地虫鳴く     | 奥田好子  | ○一枚に認めし字の爽やかに     | 石角節子  |
| さやけしや言葉のいらぬ二人なり  | 森岡喜恵子 | 爽やかや地球の上に朝がくる     | 中本 宙  |
| 完走の爽やかな子の笑顔かな    | 河辺さち子 | 爽やかやミントの香る朝の庭     | 室田妙子  |
| 爽やかや海山の風出合ふ町     | 奥野千草  | 如来さま菩薩さまへと地蟲鳴く    | 三好ようこ |
| 爽やかや塵ひとつ無き御所の庭   | 河辺さち子 | 行進の足並み揃ひ爽やかに      | 長安悦子  |
| 爽やかな風を捉へてテープ切る   | 船山美貴  | 写真見ゆ虚子の破顔の爽やかに    | 徳永由起子 |
| 廃村の大地地虫の鳴くばかり    | 福島良枝  | アスファルトジャングルの街地蟲鳴く | 中本 宙  |
| 爽やかや天に通ずる風の道     | 武本満子  | ○地虫鳴く草葉の陰の声のごと    | 岡本やすし |
| ○爽やかに去りしマウンドなほ歓喜 | 足立朱麻  | 継いだ畑荒地に戻り地虫鳴く     | 松若英理子 |
| 地虫鳴く影濃きままに一途かな   | 一坪信舟  | 墓じまひ了へし更地に地虫鳴く    | 松若修一  |
| 爽やかな笑顔でバイク走り去る   | 松若英理子 | 地虫鳴く思考の中に割り込みぬ    | 徳永由起子 |
| 爽やかに老いを語りし為人     | 平尾孝子  | 爽やかや優勝行進甲子園       | 室田妙子  |
| 月食の神秘地虫の鳴く不思議    | 多田羅紀子 | 遠望の山爽やかにハイウェイ     | 藤田敦雄  |
| 血涼し折紙つきのまがひ物     | 北上美佐子 | 爽やかに稽古の成果見えし子よ    | 谷本房子  |
| 地虫鳴く声絶え夜明近づきぬ    | 徳岡美祢子 | 地虫鳴く沖縄戦の塹壕に       | 平尾孝子  |
| 昨夜雨に洗はれし町爽やかに    | 山之口倫子 | ○晩年の扉のむかう地虫鳴く     | 北上美佐子 |
| 真闇てふ怖さ秘境の地虫鳴く    | 福島良枝  | 裏木戸の母立ち話地虫鳴く      | 藤田敦雄  |
| 地虫鳴く地球ますます変だよと   | 森岡喜恵子 | 地蟲鳴く眠れぬ夜のうすあかり    | 三好ようこ |
| 祈る夫後姿の爽やかに       | 平尾孝子  | 寝付かれぬ闇の深さや地虫鳴く    | 石角節子  |
| 地虫鳴く夜道を母と手を繋ぎ    | 谷本房子  | 高雄溪底に百の灯地虫鳴く      | 徳永由起子 |
| 地虫鳴く山宿の灯の滲みけり    | 徳永由起子 | ○さやけしや竹林そよぎ優る艶    | 藤田敦雄  |
| さやけしや笑顔残して振り向かず  | 森岡喜恵子 | 案じぬし嵐それたり爽やかに     | 田中由子  |
| 爽やかに五感五欲をとり戻す    | 山之口倫子 | 爽やかな季節限定なるクッキー    | 谷本房子  |
| 地虫鳴く灯に挑むかに屋敷町    | 奥野千草  | 早朝の爽やかな今日訪れし      | 山村千恵子 |
|                  |       | 帰りなんいざと退職爽やかに     | 松若修一  |

さやけしや会ひたき人に会へし旅

地下鉄の終点何処地虫鳴く

爽やかに余命のことを淡々と

あれあれと其処彼処より地虫鳴く

地虫鳴く夜更しといふ至福かな

校庭の風さわやかに逆上がり

◇ ◇

(廣太郎先生出句)

颱風に突つ込んでゆく西の旅

爽やかに水を湛へる芦屋川

地虫鳴く瞬き返す夕星に

爽やかに嵐逸れゆく早さかな

地虫鳴く庭の歳月知り尽くし

森岡喜恵子

平尾孝子

北上美佐子

奥田好子

奥野千草

惠島祥一朗

意外にも仇討物や地虫鳴く

爽やかに天指す詩魂湖中句碑

○緊張の闇の端崩し地虫鳴く

○爽やかに語り継がれて忌日過ぐ

微笑みは爽やかにして共通語

優勝へ伸びよ球音爽やかに

地虫鳴く天変地異にをののきて

爽やかな一札残し敗者去る

爽やかに生きむ来世を楽しみに

碧眼の爽やかに席譲りくれ

石庭の波打つ音や地虫鳴く

地虫鳴く屋台に愚痴る宮仕へ

爽やかに雨後の勢の芦屋川

爽やかに吉備路の風の待つてをり

何するも皆爽やかになつてから

○魂に触れて地虫の鳴きにけり

句の境地地虫鳴くのも気にならず

爽やかに馬のロマンを語りたる

体裁も気取りもなしに地虫鳴く

地虫鳴く嵐にでんと虚子座像

地虫鳴き出して記憶のつながる夜

爽やかや地熱を冷ます雨の音

三十階ビルを支へて地虫鳴く

地虫鳴く女所帯にいつか慣れ

地虫鳴く地球ざわめくそこかしこ

墓仕舞また墓仕舞地虫鳴く

地虫鳴く父を疎みて反抗期

爽やかな笑みの揃へば始業ベル

○土となる先祖の声か地虫鳴く

地虫鳴く今日の宴会闇の中

荷を解くや地虫の鳴くを聞きながら

緊張の初参加てふ爽やかさ

地虫鳴く五十路の婚の小さき宴

○爽やかに駅は高校生を吐く

物知りの子の爽やかな応へ振り

爽やかに抹茶のみ干し竹林へ

地虫鳴く釧路湿原星の宿

親王の哀史繙き地虫鳴く

爽やかなスピーチに沸く拍手かな

酒蔵に天窗ひとつ地虫鳴く

吉田知子

奥山登志行

本郷桂子

新田佐代子

高野さち

玉手のり子

小柴智子

藤井啓子

生澤瑛子

槌橋眞美

小林志乃

槌橋眞美

玉手のり子

藤井啓子

田附光映

吉田知子

高橋純子

平田 恵

高木雅恵

奥山登志行

本郷桂子

西村みどり

辻田あづき

生澤瑛子

南波喜久子

小柴智子

高野さち

北井真有美

高木雅恵

道中義臣

平田 恵

林 曜子

槌橋眞美

田附光映

吉田知子

本郷桂子

柄川武子

小林志乃

小柴智子

藤井啓子

## 第二句会入選句

無聊とは或る時苦痛地虫鳴く

爽やかに白寿の淑女紅をさす

城濠の水面の低し地虫鳴く

爽やかや雨のりこえて集ふ会

是是非非と対峙の後は爽やかに

○地虫鳴くついて来るかに夜の底

久々に会ひし後輩爽やかや

眠り足り爽やかな朝句会へと

縁側の根もの土もの地虫鳴く

○爽やかに雑草風を使ひきる

虚子語る講師は米寿爽やかに

爽やかに褒めて子育て上手かな

名跡の襲名口上爽やかに

地虫鳴くタワーマンション五十階

琴線の凹みに触れて地虫鳴く

爽やかな闇に神話の星の詩

地虫鳴く闇美しき丑の刻

星一つ見えぬ暗闇地虫鳴く

見ゆるもの皆爽やかや退院す

ひそやかに会話の中へ地虫鳴く

堰落つる水音さやけし芦屋川

地虫鳴く地球の声に傾ぐ耳

拍子木に合はせ開幕爽やかに

○爽やかな山気の紡ぐ命かな

六甲へ濃き影投げて爽やかに

○伝へたき魔界の秘密地虫鳴く  
坂道の多き温泉の町地虫鳴く  
真善美掲げて日々を爽やかに  
少女らの黒爽やかに着こなせる  
地虫鳴く声のひとすぢ独りの夜  
爽やかに開け放ちあり山の堂  
靴音を聞き分け愛馬肥えにけり  
地虫鳴く幼なの足は三拍子  
地虫鳴く人住む星の片隅に  
嵐にも笑む年尾像爽やかに  
総身に爽やかな風音まどふ  
枕経めきて地虫の鳴く夕べ  
胸騒ぎ聞きぬるやうに地虫鳴く  
空つぼの獣舎の草や地虫鳴く  
○挨拶のやうに恋して爽やかに

玉手のり子  
田村惠津子  
北井真有美  
生澤瑛子  
高橋純子  
林 曜子  
平田 惠  
辻田あづき  
田附光映  
奥山登志行  
本郷桂子  
小柴智子  
南波喜久子  
高野さち  
玉手のり子

◇ ◇  
(廣太郎先生出句)

地虫鳴く地球最後の日を知りて  
爽やかやいよよ秒読みタイガース  
爽やかに送る義兄のレクイエム  
倂の失せゆく庭に地虫鳴く  
瀬戸内の波尖らせて颱風来

◎次回第83回六甲会は令和7年12月5日(金)開催です。  
兼題 埋火・千鳥